

健康環境文化コース(第二期)における 社会人向けリカレント教育カリキュラムの開発と評価

鹿児島大学産学官連携推進機構 特任准教授 野村 卓
鹿児島大学生涯学習教育研究センター准教授 小栗 有子

はじめに

鹿児島大学かごしまルネッサンスアカデミー（KRA）は、平成 18 年度文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成プログラム」として採択され、独立行政法人科学技術振興機構（JST）を委託元とする最長 5 年間の委託事業である。

KRA には、焼酎・発酵食品産業の技術者のためのリカレント教育を担うコースとして「食の安全管理コース」、同じく同産業の経営者のためのリカレント教育を担うコースとして「経営管理コース」、そして鹿児島の環境や資源、文化と歴史を活かしながら、焼酎・発酵食品などの伝統的食品産業を中心とした地域の自立的発展を展望できる社会人養成を担うコースとして「健康・環境・文化コース」（HEC コース）の 3 コースが設置されていた。

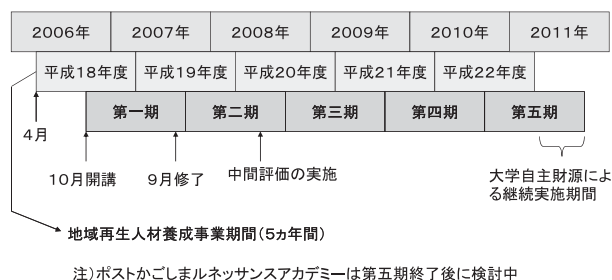
各コースの定員は、食の安全管理コース、経営管理コースがそれぞれ 10 名、HEC コースが 30 名の計 50 名である。

本報告は、初年度（第一期）のカリキュラム開発と評価について、継続的に報告を行うものである。このため本報告では HEC コース第一期の成果と課題をふまえて、第二期で改善された点および成果と課題について整理し、第三期に向けた展望を示すものである。

ここで、改めて鹿児島大学かごしまルネッサンスアカデミーの五ヶ年計画の流れを踏まえておきたい。図 1 に、かごしまルネッサンスアカデミーの実施期間及び年度を示した。

本事業は平成 18 年度に採択された事業であるが、第一期の開講は同年度 10 月となり、半期ずれて、年度を跨ぐようにして人材養成をおこなっている。このため、9 月に修了を迎え、最終年度の平成 22 年度（第五期）は、前半期をもって、科学技術振興調整費の補助を受けず、大学の自主財源によって運営することになる。

図1 かごしまルネッサンスアカデミーの実施期間及び年度



第 1 章 第一期（平成 18 年 10 月～平成 19 年 9 月）：健康環境文化コースの成果と課題

ここでは、降旗・小栗によって示された第一期の報告の概要について述べることにする（降旗信一・小栗有子 2008, 平成 18 年度委託業務成果報告書）。

1 第一期のカリキュラム

(1) 教育目標の設定と科目・クラスの配置

第一期のカリキュラムの概念（図 2）及びカリキュ

図2 第一期カリキュラム概念図

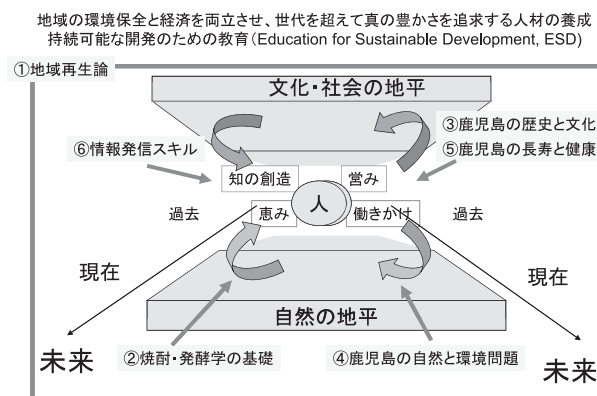


表1 第一期カリキュラム一覧

第1期 健康・環境・文化コースカリキュラム

クラス番号	コマ数と講義名	講 師	健康・環境・文化コース
(1) 地域再生論			修了要件12コマ
H2008001	4 世界の中の鹿兒島の位置と課題	小泉武夫、岩元 泉	必修クラス
H2008002	4 地域再生と教育	小栗有子ほか	必修クラス
H2008003	4 持続可能な開発モデルと地域経営	大前慶和、金子和夫(外) ほか	必修クラス
(2) 焼酎・発酵学の基礎			修了要件12コマ
H2008004	4 発酵学の基礎	鮫島吉廣、高峯和則ほか	必修クラス
H2008005	2 微生物と環境	木田健次(外)	必修クラス
H2008006	2 焼酎の流通と消費	小堀令淳(外)	選択クラス
H2008007	4 伝統技術と科学技術	鮫島吉廣、西谷尚道(外)	選択クラス
H2008008	2 焼酎の官能評価	鮫島吉廣、吉行正巳(外)	選択クラス
H2008009	2 焼酎づくりと技術	高峯+酒造会社見学(外)	必須クラス
(3) 鹿兒島の文化と歴史			修了要件12コマ
H2008010	3 焼酎文化の歴史	原口泉	必修クラス
H2008011	2 薩摩藩士の旅	丹羽謙治	選択クラス
H2008012	2 鹿兒島の文化と課題	木部暢子	必修クラス
H2008013	4 南九州の文化の地域性 -アジアとの比較の視座から-	川野和昭(外)	選択クラス
H2008014	2 鹿兒島の方言	木部暢子	選択クラス
H2008015	2 薩摩の焼き物	渡辺芳郎	選択クラス
(4) 鹿兒島の自然と環境問題			修了要件16コマ
H2008016	2 焼酎づくりと水(講義)	高峯和則	必修クラス
H2008017	2 焼酎づくりと水(実習)	高峯+酒造会社見学(外)	必修クラス
H2008018	2 焼酎廃液とゼロエミッション	江幡恵吾、川井田博(外)	選択クラス
H2008019	1 鹿兒島の水資源と産業	坂元隼雄(外)	選択クラス
H2008020	2 鹿兒島の環境問題と施策	是枝哲郎・小野原裕子(外)	必修クラス
H2008021	4 鹿兒島の水環境と循環	井倉、佐藤、小山、大木	必修クラス
H2008022	4 鹿兒島の水環境と循環(実習Ⅰ)	大木公彦	選択必修クラス群A
H2008023	2 鹿兒島の水環境と循環(実習Ⅱ)	佐藤正典	選択必修クラス群A
H2008024	4 鹿兒島の水環境と循環(実習Ⅲ)	小山次郎	選択必修クラス群A
H2008025	4 鹿兒島の水環境と循環(実習Ⅳ)	井倉洋二	選択必修クラス群A
(5) 鹿兒島の健康と長寿			修了要件8コマ
H2008026	3 鹿兒島の長寿と健康	吉田紀子(外)	必修クラス
H2008027	3 食生活と健康	乾明夫	必修クラス
H2008028	1 消化器病と健康	坪内博仁	選択クラス
H2008029	1 循環器病と健康	尾辻豊(外)	選択クラス
H2008030	1 心と健康	乾明夫	選択クラス
H2008031	1 目と健康	坂本泰二	選択クラス
H2008032	1 皮膚と健康	金蔵拓郎	選択クラス
H2008033	1 救急疾患	上村裕一	選択クラス
(6) 情報発信スキル			修了要件14コマ
H2008034	2 知の創造と共有スキルとは	山見博康(外)	必修クラス
H2008035	2 インタープレーションスキルⅠ	松野修	選択必修クラス群B
H2008036	2 インタープレーションスキルⅡ	東川隆太郎(外)	選択必修クラス群B
H2008037	2 インタープレーションスキルⅢ	清水健司(外)	選択必修クラス群B
H2008038	2 インタープレーションスキルⅣ	小林毅(外)	選択必修クラス群B
H2008039	4 事業コーディネートスキル	川北秀人(外)	必修クラス
H2008040	2 プレゼンテーションスキル	四元重美(外)	必修クラス
H2008041	4 修了課題	降旗真一	必修クラス
			修了要件74コマ

ラム表（表1）を示した。第一期の教育目標は、地域の環境保全と経済を両立させ、世代を超えて真の豊かさを追求する人材養成のために、持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development, ESD）の理念を元にして形成したものである。

概念及びカリキュラムに基づいて講義実習が実施され、全体として満足度が70.8%と、肯定的な評価を得て、教育目標に沿った成果を挙げた。

一方、平成18年度の成果報告書の提出時（前半期）に、満足度調査における評価で「焼酎講座の公開版と感じていたので期待とのギャップが大きかった。」との指摘があった。これは、より専門的な内容を期待していたものと推察され、その後実施された「焼酎・発酵学の基礎」の講義を実施したことによって、満足度が回復した。

その後、カリキュラム研究会での答申や県行政、業界団体、外部講師、受講生のニーズ等を勘案して、幅広い領域を学習していく中でクラスや講義・実習の位置づけが明確になるようなカリキュラムの改善やシラバスの公開などを検討し、第二期のカリキュラムに反映した。

具体的には6つのクラスの最初に概論として科目オリエンテーション（必修）を設置し、コース全体の位置づけやクラスの位置づけを明確に提示しながら、実習やコマ数、講座の実施時期を改善した配置を行い、教育目標に沿った人材養成カリキュラムを実施した。

(2) 出席とレポート課題

必修科目が多く、講義が集中する日程が組まれているため、受講者からの要望として、欠席の場合の救済措置を求める声やレポート課題の負担軽減などが上げられた。

当初、レポート課題は講義に対する自由課題として設定されており、これを講師が事前に課題提示する方式に改善したことによって、受講生の講義聴講への意識が高まり、結果として満足度が高まることが判明した。

この成果から、課題を事前に提示する方法を第二期にも継続し、その効果について見定めることにした。

欠席者への対応については、第一期は補講や個別指導を実施して受講の形式を整え、レポート提出が遅れた受講者には早急にレポートを作成・提出によって単位修得ができるようにした。第二期については、録画

等による記録を視聴することによって各自で補講することを可能にし、レポート提出指導を行っていくことにした。

(3) 必修クラスについて

必修クラスが平日夜に開講されている場合、受講者によっては仕事の都合で出席できないケースがあった。また選択必修とされている実習クラスに関しても諸般の事情により参加できないケースがあった。第二期以降は、必修クラスは必要最小限にとどめ、選択科目の幅を広げ、やむをえない理由により欠席せざるを得ない場合のために救済措置としては上記（2）で指摘した方法によって単位修得させていくことにした。

(4) 講義・実習の内容や進め方等

講義・実習の内容や進め方等については、実習の評価は高い評価を受ける傾向があった。よって、実習数を多く設置できるように第二期のカリキュラム検討を行うことにした。

また、講義においてもディスカッションやワークショップ等の手法を導入し、意見交換を行う中で、知識習得が行われる講義・実習のやり方を検討していくことにした。

また、教材開発の一環として、第一期途中から講師には資料の事前準備、当日配布という形式の中で、講義・実習の指導を行ってもらえるようにした。これらは第二期の講義・実習の進め方として継続することにした。

更に、情報発信能力を修得する機会として、第一期生は修了課題を実施し、個人個人で取り組んだ。この成果は、商業施設内のホール（名称：ドルフィンポート）を使用して、一般の方に公開発表した。取り組んだ課題は表2に示した。修了課題に取り組む過程や成果発表の機会は、第一期生の修了後の目標づけ、動機づけに大きな影響を与え、事業展開や地域での活動につながっていた。

第二期以降の修了課題の取り組みでは、地域再生の担い手育成を具体的にイメージし、グループ単位で取り組む方式を導入することにした。そこでは、地域課題や産業課題を具体的に設定し、合意形成や調査研究の手法を修得する過程を経るよう配慮することにした。

これらを実施するために、コースとして修了課題への学習支援体制の整備が課題となった。

表2 第一期 情報発信「修了課題」課題一覧

日本初のカジノで黒豚レースー世界のリゾート KAGOSHIMA への挑戦ー	ロマン薫る、南さつま『中座敷』「吹上地域活性化」プロジェクト	新鮮な鹿児島の「今」を切り取る『生(なま)かごしま』創刊!!	かごしまなつかし写真館 かごしまの美味しいと共に、昔住んでいたあの町の風景をお届けします。
垂水食の今昔物語ー水の巻ー新たな1頁をあなたの手で!!	休眠キャンプ場活性プロジェクトーさつま掘り出し工芸祭 in 東郷ー	宇都川(始良町)を魚が住める自然に返そうー私たちが、清流の流れの変化を見守ってみませんかー	緑と水に囲まれ、歴史と伝統が息づく「郡山活性化」プロジェクト
鹿児島の特産である桜島小みかんを有機栽培しよう!	お日市型ファーマーズマーケットー生産者と住民の交流・憩いの場ー	焼酎バカンスー不老フード風呂ライフの旅ー	「焼酎かごんマップ & WEB」を作ろう! 今、焼酎蔵がおもしろい
エリア限定! FMひおきつくも聴くも日置市民! その名はFMヒオッキー	私が県外からの観光客だったら・・・鹿児島の本格焼酎をこんな風を楽しみたい! 宿泊施設における焼酎の提供の仕方について提案	桜だいら“ふれあい農園”ー安全な手作り野菜を食卓へー	一日一時間野外に出よう運動ーこれからの人生を楽しく生きるためにー
鹿児島産直商店街 全国に発信中! 鹿児島いいもの見つけ隊!	薩摩焼酎アカデミー	黒砂糖のすごさを知っていますか? (サトウキビだけから作られるピュアな砂糖)	ふるさとごはん祭 心の温かくなるごはん大集合!!!
心も体も快く弾む 弾快(団塊)の世代応援隊	素材は全て県内産 誰でもおいしく安心して飲める「薩摩カクテル」創造プロジェクト	鹿児島特産のフルーツをぎゅーっと詰め込んだ“薩摩リキュール”年間頒布会	かごつま弁道場「J ADD O」
若者よ! 成人式の祝杯は仲間と手掛けた薩摩焼酎で!!	カッターを漕いで無人島(ヤギ島)に行こう!	きもつきりバー自然楽校 in かのやー学ぶ自然百科・遊々隊ー	外部導入施設に求められる地域貢献ー大野 ESD 自然学校への提言ー
焼酎前線を北上させよう!! 東北、北海道地方に薩摩焼酎を・	トカラへ! そこは感性の島、あなたの五感を取り戻せ!	坂元のくろず 日常化計画	

第2章 第二期(平成19年10月～平成20年9月):健康環境文化コースにおけるカリキュラム運営

1 第二期の教育目標と年間カリキュラム

HEC コースでは、第一期の改善点に基づき、第二期のカリキュラム編成を行った。

教育目標としては、第一期の方針を原則継続し、カリキュラムとしては必修・選択科目を再編し、選択科目を増加させた。更に、一期に個々人で取り組んだ修了課題を実施する上での課題を改善・発展させていくために、第二期からはグループで修了課題に取り組むことにし、情報発信の強化を図った。

(1)カリキュラムの詳細

かごしまルネッサンスアカデミーは、「伝統と地域の特性を活かした醸造業を支える技能に科学的・文化的な側面の裏づけを与え、世界へ向けて鹿児島のブランドを確立できる人材、さらにブランド力を高めるための経営センス、過疎や環境問題の理解、歴史や健康といった醸造文化の教養・見識を併せ持つ人材を養成すること」を目的としている。

この目的を受けて、「健康・環境・文化コース」では、鹿児島の食を中心とした歴史、文化、環境をはじめ、健康・長寿等に関する見識を身につけ、かつ、世界的視野から鹿児島を抱える課題と現状を理解し、鹿児島が今後向かうべき持続可能な社会の展望の下、鹿

児島の焼酎をはじめとする醸造・発酵関連産業の意義と価値について理解し、それらを県内外に情報発信し、自らの生活・労働の場において、進んで鹿児島地域の再生に取り組む意欲と能力を有する人材を養成することを目的とする。

(2) 「健康・環境・文化コース」の教育目標

教育目的を達成するために、「健康・環境・文化コース」では、次の教育目標を掲げ、カリキュラムを編成する。

世界的視野に立ち、経済、文化、環境の各視点から鹿児島県の位置と課題を確認し、持続可能な社会の基本的考えを理解する。

発酵メカニズムの基本を踏まえ、醸造・発酵食品の生産・流通・消費・廃棄にいたる特性と課題について理解する。

鹿児島の醸造・発酵文化を支えてきた思想、言語、社会経済制度、生活技術の変遷、および、その意義について、環アジア太平洋地域との関係で通史的に理解する。

鹿児島の自然環境の特性と現状を科学的・実践的に理解したうえで、鹿児島の醸造・発酵産業を支える地域資源の持続的利用の原則と課題について理解する。

科学的な視点から鹿児島の伝統的な食と環境、および、現代の食と環境が健康に及ぼす影響や問題について理解する。

本コースで獲得した知識を情報発信するために必要な各種スキルを身につける。

(3) 第一期からの具体的な改善点

科目名の変更

【3】「焼酎・発酵学の基礎」→「焼酎・発酵産業の基礎」

【4】「鹿児島の自然と環境問題」→「鹿児島の食産業を支える自然環境」

科目オリエンテーションの設定

科目コーディネータの先生を配置、科目全体を通じるレポート課題を提示

実習の充実

机上で理論を学ぶのみならず現場視察を重視

開講時期に配慮（いも焼酎製造の最盛期に実習を実施）

ディスカッション時間の確保

講師一人につき最低 90 分

レポート作成時間の確保

講師一人につき最低 30 分

必修クラスの厳選

受講者の多様なニーズに対応

修了課題の重点化

年間を通じた準備期間、個人作業からグループ作業へ、一般対象ではなく専門家へのプレゼン

(4) 各科目の概要とカリキュラム

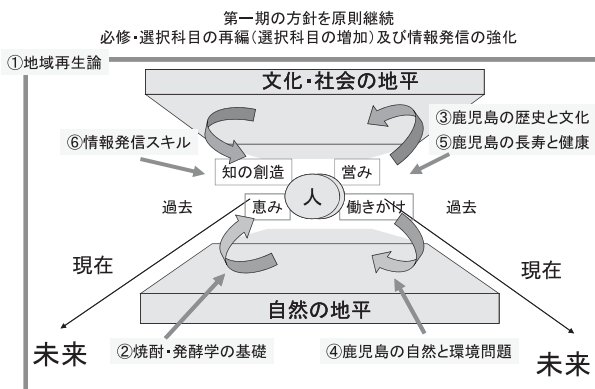
地域再生論

この分野は、本コースの総論部分にあたる。グローバル化が進展する世界動向の中で、鹿児島の位置と課題を経済、文化、環境の各視点から明らかにし、今後鹿児島が向かうべき持続可能な社会の展望を示す。持続可能な社会とは、地域の環境保全と経済を両立させ、かつ、そこで暮らす人々が世代を超えて真の豊かさを追求する社会のことである。この講義を通して、そのような社会の実現を阻む課題と、それを克服するために必要な基本的な知識を習得する。

鹿児島の文化と歴史

文化というと、一般には地域固有のものと考えがちである。しかし、文化は古来、私たちの想像以上に流動的だった。地域同士は常に何らかの形で交流し、その結果、ある地域は他の地域の文化を取り入れ、取り入れた文化を地域の中で発展させ、新たな文化を創造し、今度はそれを他の地域へ送り出す、このようなことを繰り返してきた。焼酎の歴史を考えてみても、最初、琉球から薩摩に伝わった米焼酎

図3 第二期カリキュラム概念図



は(一説に朝鮮半島から九州へ伝わったとも言われる)、甘藷の伝来に伴い、薩摩の地で芋焼酎に生まれ変わり、芋焼酎は今や全国へと広がっている。

しかし、改めて地域固有の文化とは、いったい何なのか。交流により何が地域にもたらされ、地域はそれをどう定着させていったのか。交流を支えるもの、妨げるものは何なのか等々、疑問は尽きない。この分野の授業では、焼酎文化をはぐくんできた鹿児島の文化を例にあげながら、その一端に触れる。

焼酎・発酵産業の基礎

この分野は、鹿児島の焼酎をはじめとする醸造・発酵関連産業の意義と価値を発見するために必要な知識の習得を目指す。

鹿児島の伝統発酵飲料である焼酎や黒酢の製造法と、その伝統技術に隠された先人の知恵や、風土性、そしてオリジナリティを分かりやすく講義する。また、きき酒のやり方を学び、実際に焼酎作りの現場を視察して理解を深める。

さらに、焼酎をとりまく市場流通の現状、焼酎粕の有効利用の講義を通じて、焼酎の現状を理解し、これからの方向性を考える。

また鹿児島の食産業を支える農業や郷土料理・発酵食品について実習・講義を行い、多彩な鹿児島の発酵食品文化の知識を習得する。

鹿児島の食産業を支える自然環境

鹿児島の食産業は、鹿児島の豊かな自然を土台にししながら、そこに人の知恵が介在することを通して発展してきた。この分野の講義・実習では、その鹿児島の食産業を支える自然の特性と課題に関する基本的な認識を獲得するために、次の3点を特徴にしている。

一つ目は、「鹿児島の水」を切り口に全体のカリキュラムが構成されている点(自然のメカニズムを理解する最も基本概念である「循環」を「鹿児島の水」を通してその原理原則を理解し、その上に人間の経済的営みや産業に地域資源を活用していることを理解する)。

二つ目は、鹿児島の環境を自然環境のみを切り取って扱うのではなく、産業や暮らしといった経済的な営みや生計との関係で捉えることに配慮している点。

三つ目は、一方的な座学の講義だけではなく、フィールド体験学習をセットにすることで、理論のみならず実践と結びついた知識の習得を目指している点。

鹿児島の健康と長寿

この講義は、焼酎を中心とした鹿児島の食や環境が健康に及ぼす影響を、長寿との関連から、また肥満、糖尿病、高血圧、高脂血症といったメタボリック症候群やメンタルヘルスの問題から、さらに臓器、器官のレベルでの健康という視点から講義を行うものである。

焼酎をはじめとする伝統的な鹿児島の食や環境と健康という問題を科学的な視点からながめ、現代社会における位置付けを明確にすることが目的である。

必修科目である「鹿児島の長寿と健康」においては、焼酎、特に黒糖焼酎と長寿の関係、環境要因として、例えば奄美の海や豊かな自然とストレス、メンタルヘルスの関係を、疫学的手法に基づくデータをもとに講義が行われる。「食生活と健康」では、メタボリック症候群や悪液質という体重の両極端の異常をとりあげ、その成因、病態と鹿児島の食の役割や限界について率直に述べ、今後の展望に関する議論が行われる。

情報発信スキル

この講義・実習では、本コースで獲得した知識を情報発信するための実践的なスキルを学ぶ。地域再生のための人材には、先人が積み重ねてきた多くの蓄積の中から、新たな知を再発見・創造し、それを情報として発信・共有することが求められる。本科目では、そうした知の創造と共有に必要な総合的なスキルとして、受講者の活動分野や興味関心に応じて事業や製品のアイデアを企画として立案し、プレゼンテーションを行うことを修了課題とする。この修了課題に向け、受講者が本コースを通して再発見・創造した知を、コース修了後それぞれの状況に応じて発信・共有するために「事業コーディネートスキル」「プレゼンテーションスキル」「広報スキル」などの個別のスキルを身につける。

また、知の創造の基礎となる地域の実態把握のための「情報の収集」つまり「調査」スキルとして「地域調査スキル(実習)」、参加・体験型の学びの技法である「ワークショップ」、地元の人が主体となり地域外の人の視点や助言を得ながら地域独自の生活(文化)を日常的に創り上げる「地元学」、ある一定の地域において住民の参加により研究・保存・展示を行いながら環境と人間とのかかわりを探る博物館システムである「エコミュージアム」をそれぞれ学ぶ。

表3 第二期カリキュラム一覧

第二期 健康・環境・文化コース(2007.10 - 2008.9)カリキュラム

クラス番号	コマ数	講 義 名	クラス担当教員	健康・環境・文化コース
地域再生論(全8クラス-20コマ)【科目担当教員 小栗有子】				
H001	2	科目オリエンテーション	小栗有子	必修クラス
H002	2	地域活性化とアグリビジネス	小泉武夫	選択クラス
H003	2	地域からみた食文化の再生	未定	選択クラス
H004	2	世界の中の鹿児島経済	岩元 泉	選択クラス
H005	2	地域ブランドづくり	金子和夫(外)	選択クラス
H006	2	持続可能な観光まちづくり	大島順子(外)	選択クラス
H007	4	持続可能な開発モデルと地域経営	李哉 滋	選択クラス
H008	4	地域再生と教育	小栗有子	選択クラス
鹿児島の文化と歴史(全7クラス-18コマ)【科目担当教員 木部暢子】				
H009	2	科目オリエンテーション	木部暢子	必修クラス
H010	2	薩摩藩の歴史と地場産業の形成	原口 泉	選択クラス
H011	2	飲酒習俗と地域社会の成り立ち	原口 泉	選択クラス
H012	2	鹿児島の方言	木部暢子	選択クラス
H013	2	薩摩の焼き物	渡辺芳郎	選択クラス
H014	4	薩摩の近代文化	寺尾美保(外)	選択クラス
H015	4	南九州文化の地域性-アジアとの比較の視座から-	川野和昭(外)	選択クラス
焼酎・発酵産業の基礎(10クラス-24コマ)【科目担当教員 鮫島吉廣】				
H016	2	科目オリエンテーション	鮫島吉廣	必修クラス
H017	2	焼酎ダレヤメ文化	鮫島吉廣	選択クラス
H018	2	焼酎の流通と消費	小堀令淳(外)	選択クラス
H019	2	焼酎廃液とゼロエミッション	江幡恵吾	選択クラス
H020	2	黒酢の世界	長野正信(外)	選択クラス
H021	4	焼酎づくりと技術	高峯和則	選択クラス
H022	4	鹿児島の食産業を支える農業	秋山邦裕	選択クラス
H023	4	鹿児島の郷土料理と発酵食品	福司山エツ子(外)・田島真理子	選択クラス
H024	2	焼酎の官能評価	高峯和則	選択クラス
鹿児島の食産業を支える自然環境(7クラス-22コマ)【科目担当教員 小栗有子】				
H025	2	科目オリエンテーション	小栗有子	必修クラス
H026	2	鹿児島の土壌	浜崎忠雄	選択クラス
H027	2	鹿児島の森林と水循環	館野隆之輔	選択クラス
H028	4	鹿児島の海底地質と環境	大木公彦	選択クラス
H029	4	鹿児島の干潟と環境	佐藤正典	選択クラス
H030	4	鹿児島の河川と環境	小山次朗	選択クラス
H031	4	鹿児島の森と環境	井倉洋二	選択クラス
情報発信スキル(9クラス-28コマ)【科目担当教員 降旗信一】				
H032	2	科目オリエンテーション	降旗信一(外)	必修クラス
H033	2	プレゼンテーションスキル	四元重美(外)	選択クラス
H034	2	広報スキル	山見博康(外)	選択クラス
H035	2	地元学のすすめ	吉本哲郎(外)	選択クラス
H036	2	エコミュージアム	西澤信雄(外)	選択クラス
H037	4	事業コーディネートスキルⅠ	川北秀人(外)	必修クラス
H038	4	ワークショップ	志賀壮史(外)	選択クラス
H039	4	事業コーディネートスキルⅡ	川北秀人(外)	必修クラス
H040	4	終了課題	降旗信一(外)	必修クラス
鹿児島の健康と長寿(8クラス-16コマ)【科目担当教員 乾 明夫】				
H041	2	科目オリエンテーション・食生活と健康	乾 明夫	必修クラス
H042	2	心と健康	乾 明夫	選択クラス
H043	2	目と健康	坂本泰二	選択クラス
H044	2	長寿と健康	吉田紀子(外)	選択クラス
H045	2	消化器病と健康	坪内博仁	選択クラス
H046	2	循環器病と健康	尾辻 豊(外)	選択クラス
H047	2	皮膚と健康	金蔵拓郎	選択クラス
H048	2	救急疾患	上村裕一	選択クラス
				74コマ(必修18コマ、 選択56コマ)

表4 - 1 第二期前半 (平成19年10月～平成20年3月) の個別クラス履修状況

開講日	講義名		履修者数	出席者数	欠席者数
10月13日 (土)	「地域再生論」科目オリエンテーション	必修	34	32	2
10月14日 (日)	持続可能な開発モデルと地域経営	選択	23	22	1
10月18日 (木)	地域活性化とアグリビジネス	選択	30	27	3
10月28日 (日)	地域ブランドづくり	選択	29	23	6
10月28日 (日)	持続可能な観光まちづくり	選択	29	24	5
11月6日 (木)	世界の中の鹿児島の経済	選択	27	25	2
11月11日 (日)	地域再生と教育	選択	24	21	3
12月1日 (土)	「鹿児島の文化と歴史」科目オリエンテーション	必修	34	27	7
12月1日 (土)	鹿児島の方言	選択	28	24	4
12月22日 (土)	薩摩の焼き物	選択	30	26	4
1月13日 (日)	薩摩藩の歴史と地場産業の形成	選択	33	28	5
1月13日 (日)	飲酒習俗と地域社会の成り立ち	選択	32	27	5
1月19日 (土)	薩摩の近代文化	選択	31	25	6
1月26日 (土)	南九州の文化の地域性－アジアとの比較の視座から－	選択	26	19	7
10月27日 (土)	鹿児島の食産業を支える農業	選択	29	25	4
11月10日 (土)	焼酎づくりと技術	選択	29	29	0
12月22日 (土)	焼酎の官能評価	選択	32	27	5
2月2日 (土)	「焼酎・発酵産業の基礎」科目オリエンテーション	必修	34	29	5
2月2日 (土)	焼酎ダレヤメ文化	選択	32	23	9
2月3日 (日)	焼酎の流通と消費	選択	33	27	6
2月3日 (日)	黒酢の世界	選択	32	25	7
2月20日 (水)	焼酎廃液とゼロエミッション	選択	25	16	9
2月23日 (土)	鹿児島の郷土料理と発酵食品	選択	12	10	2
3月1日 (土)	鹿児島の河川と環境	選択	20	15	5
3月8日 (土)	鹿児島の干潟と環境	選択	28	25	3
3月15日 (土)	鹿児島の海底地質と環境	選択	6	6	0
12月23日 (日)	「情報発信スキル」科目オリエンテーション	必修	34	29	5
3月29日 (土)	事業コーディネートスキルI	必修	34	31	3

表4 - 2 第二期後半 (平成20年4月～9月) の個別クラス履修状況

開講日	講義名		履修者数	出席者数	欠席者数
4月5日 (土)	鹿児島の食産業を支える自然環境オリエンテーション	必修	32	23	9
4月6日 (日)	鹿児島の土壌	選択	18	13	5
4月5日 (土)	鹿児島の森林と水循環	選択	22	16	6
4月12日 (土)	鹿児島の森と環境	選択	21	17	4
6月28日 (土)	プレゼンテーションスキル	選択	27	20	7
4月26日 (土)	広報スキル	選択	23	17	6
6月1日 (日)	地元学のすすめ	選択	23	17	6
5月29日 (木)	エコミュージアム	選択	25	21	4
4月19日 (土)	ワークショップ	選択	18	15	3
5月31日 (土)	事業コーディネートスキルII	必修	34	28	6
8月23日 (土)	修了課題	必修	34	27	7

7月5日（土）	鹿児島県の健康と長寿オリエンテーション	必修			
7月5日（土）	心と健康	選択	？	？	？
7月6日（日）	目と健康	選択	25	19	6
7月12日（土）	長寿と健康	選択	27	24	3
6月11日（水）	消化器病と健康	選択	23	16	7
6月1日（日）	循環器病と健康	選択	25	17	8
6月29日（日）	皮膚と健康	選択	23	15	8
7月6日（日）	救急疾患	選択	？	？	？

2 第二期受講者の概要

健康環境文化コースの応募状況は、34名（定員30名）の入学を認めた。

表5に示すとおり、男性15名、女性19名であった。焼酎・発酵食品産業出身者が多く、これに次いで主婦や定年退職者が多く受講した。定年退職者のほとんどが男性であり、女性受講が多くなる傾向にあった。

受講者の年齢を見ると、最少19歳で高校卒業後すぐの受講者から、最高齢は79歳の高齢者までの60歳の幅を持つ受講者となった。この受講者の年齢を平均すると45歳になり、第一期に比べ若干受講年齢が上昇した。

しかし、年齢が高くなったからと言って、地域再生の人材になれないものではなく、逆に地域再生には多様な世代に係る必要があることから、望ましいことと考えられる。

表5 受講者の性別、年齢、職業・経歴

	性別	平均年齢	職業・経歴
健康環境文化コース	男性15名 女性19名	45歳（19歳～79歳）	焼酎メーカー、黒酢メーカー、機能的食品メーカー、食品流通業、出版業、小売業、飲食サービス業、宿泊業、県庁職員、市役所職員、市議会議員、医療従事者、ホームヘルパー、リタイア組、主婦、求職者他

※受講者の学歴は、高校卒業から大学院修了者まで多様

3 情報発信における修了課題の設定と発表会の実施

(1) 情報発信の流れ

【講義】オリエンテーション（12月23日）

講義と実習の流れの解説

発表までとにも取り組む「チーム」の編成

↓【時間外の実習】チーム別の調査

↓【講義】各チームの調査結果発表（3月29日）

↓【時間外の実習】チーム別の研究・発表準備

↓【講義】各チームの事業提案（5月31日）

↓【時間外の実習】提案した事業のテスト・マーケティング

【成果発表会】（8月下旬）

調査結果(3月29日)として発表していただきたいこと

下記の項目について、**A4用紙4枚以上**に、**太字のマジック**を使用して記入してください。

- 「**取り組みたいテーマ(名称と概要)**」、**「そのテーマに取り組むべき、社会的ニーズ**」、**「そのテーマに取り組むたい、個人的な動機」**
- テーマに関する「**仮説**」(こうなっているはず)
例:「鹿児島には、○○で◎◎な◇◇はない」
「○○な◇◇はあるが、◎◎がなくダメ・不便」
- 現状調査と分析: 既存(競合?)事業の比較表
・「名称」「特徴」「機能」「価格と持続可能性」「長所」「短所」
- 調査に基づく、「**仮説の修正案**」
・「そこで私たちは、こういう製品・サービスをつくりたい！」

グループを「チーム」にするために

- 「チーム名」を決めてください。
- 「チームのモットー」を決めてください。
-めざすこと?
-お互いにどんな気持ちで接する?
- 「キャプテン」を決めてください。
- 「調査担当」、「広報担当」、「ロジ担当」を決めてください。
-「ロジ担当」: 備品調達や会場設営など

以上は、クラス「修了課題」の講師である川北秀人氏から指導を受けた内容である。修了課題は、年間を通じて2回の進捗管理と全体の流れについて指導頂く外部講師(川北氏)と、受講生に対する日々の指導を行う専任の教員(野村)が分担して受け持った。(2) 修了課題グループとその実践課題

第二期の修了課題はグループ実践とした。このため(1)に示したとおりの日程で、まずグループ分けを行った。第二期は6つのグループを編成した。

実践課題を分類すると、鹿児島島の食育に関する実践グループが、食教育で1つ、農業体験で1つの計2グループ。鹿児島島の観光に関する実践グループが、グリーン・ツーリズムで1つ、文化交流ツーリズムで1つの計2グループ。鹿児島島の焼酎・発酵食品による活性化に関する実践グループが、焼酎輸出で1つ、伝統食品啓発で1つの計2グループであった。

これらグループのテーマ及びキーワードを表6に示した。

表6 第二期 情報発信「修了課題」課題一覧

グループ名	テーマ	キーワード
食のルネッサンス	郷土の味を伝え、優れた食品・食材を広める	私たち「食のルネッサン」は、 ・おいしい郷土の味を次世代に伝える ・食を通して家族や人と人との絆を深める ・素材にこだわり、郷土の優れた食品・食材を広めることを目指しています
さつま Foodn'5	親子で作ろう！ 桜島大根 体験農園	鹿児島島の代表的な食材を我が家の食卓へ でっかい・かわいい・美味しい！ ハートの形の桜島デコン 家族が仲良くする力がある1 桜島島内での栽培方法・食べ方まで学ぶ体験型農園
Ogojoship	殿と5人のおごじょ達	もっと鹿児島島の自然を知ってほしい！ もっと親子の深さを感じてほしい！ もっと食の大切さを知ってほしい！ そんな全てが詰まった新しい グリーン・ブルーツーリズムを体験してみませんか
かごしまプロジェクト X	いっどー いっがー おじゃったもんせ 薩摩郡山	私たちは郡山の魅力を広く発信し、多くの人に何度も訪れていただきたく、地域の内外の人々との交流を通して、郡山がますます元気で魅力ある地域になることを目指しています
From @ Satsuma 焼酎班	鹿児島島の焼酎を世界へ！	焼酎の新しいマーケットとして期待されている中国！ 中国への販路拡大を目指す蔵元が連携して、まずは焼酎の素晴らしさを伝えることから始めませんか？効果的なプロモーションを目指します。
Black of Satsuma	優れた鹿児島島の伝統食品を活かす	鹿児島島の伝統食品“かつお節”“灰持酒”“黒酢”をご存知ですか？ 県内の主婦を対象としたアンケートから『食』への関心を探り、伝統食品をより普及させる為の有効なPR方法を提案したいと思います

また、修了課題の成果を8月に発表したが、そのときの様子を図4～12に示した。

図4 食のルネッサンスグループ発表



図5 さつま Foodn5 グループ発表



図6 Ogojoship グループ発表



図7 かがしまプロジェクトXグループ発表



図8 From @ Satsuma 焼酎班グループ発表



図9 Black of Satsuma グループ発表



図 10 全体発表会



図 11 発表後の講評



図 12 発表後懇親会の様子



第3勝 第二期：健康環境文化コースにおけるカリキュラムの評価方法とその課題

1 アンケートに基づく評価と課題

(1) アンケート調査の方法

ここでは、講義・実習ごとに満足度調査を行っており、その成果をまとめる。

アンケート項目は以下の4つである。

講義の内容はためになりましたか？

講義の方法、進め方について満足していますか？

講師の話し方やスピードについて満足していますか？

教材について満足していますか？

評価については「1」から「5」までの五段階に設定し、質問に対して以下の基準を提示した。

「1」全くそうは思わない

「2」そうは思わない

「3」どちらともいえない

「4」そう思う

「5」かなりそう思う

(2) アンケート結果

アンケートは、講義実習全てに対して行われ、カリキュラム表に示されているように HEC コースだけでも、第二期には48クラス（1クラスは3時間～6時間の講義・実習が単位）が行われている。

よって、アンケート4項目×48クラスの192のアンケート結果が存在する。

すべての結果を提示するわけにはいかないで、ここではオリエンテーション科目（概論科目）の結果を提示する。

多くで3～5までの評価を受けているが、開講初期と終盤に実施される講義においては評価が低くなる傾

向が見られた。

地域再生論は開講式が実施されたあと直ぐに実施される講義である。このときは皆期待と不安の中で、慣れない中、比較的厳しい評価が行われるようであった。

また、修了間際に実施されたのが鹿児島県の健康と長寿に関する科目であった。これらは受講生が修了に必要な科目の習得にほぼ見通しが立ち、修了課題の追い込み期に当たり、なれと共に厳しい評価がなされるようであった。

また、個々人の関心ごとに健康問題があっても、終

盤に実施されることで修了課題に取り入れることが出来ずに、自身の健康問題に引き合わせて聴講する傾向から、カルチャー的な要因が強化される傾向にあった。

しかし、地域再生人材養成の過程では、講義の方法・進め方・教材の良し悪しが如何ほどの根拠が与えられるか判然としない。今後、満足度調査に替わるアンケート項目の検討が必要であった。更に個々人の学びの過程を見るために個々の評価過程を分析する必要があると考えられた。

地域再生論

図 13 講義の内容はためになりましたか？

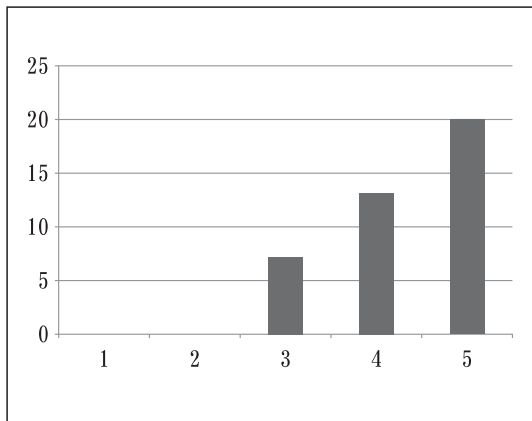


図 15 講師の話し方やスピードについて満足していますか？

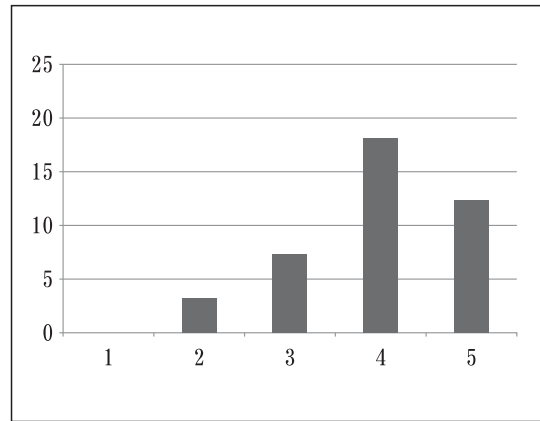


図 14 講義の方法、進め方について満足していますか？

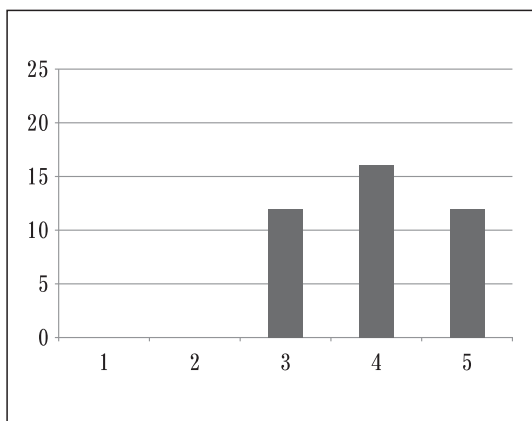
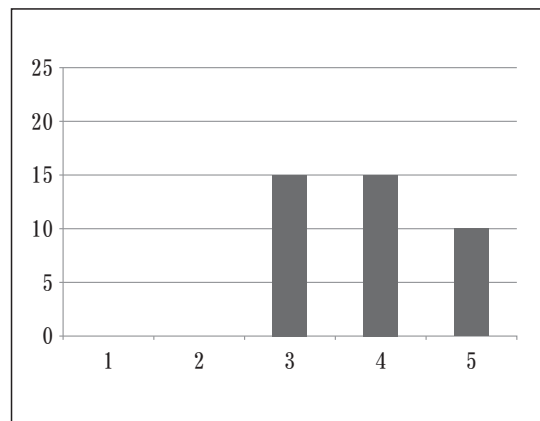


図 16 教材について満足していますか？



鹿児島島の文化と歴史

図 17 講義の内容はためになりましたか？

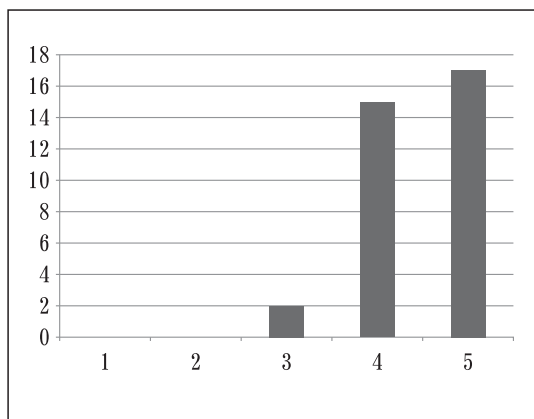


図 20 教材について満足していますか？

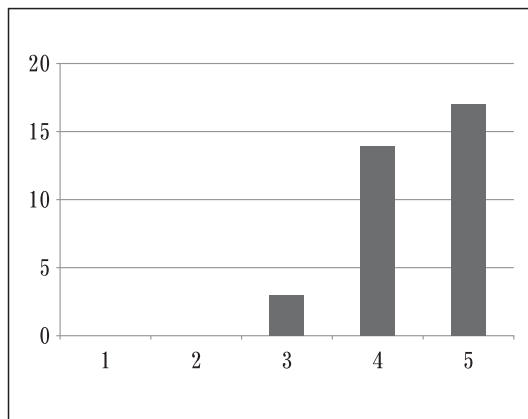
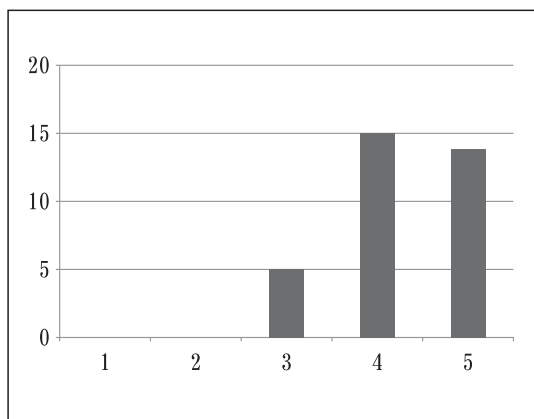


図 18 講義の方法、進め方について満足していますか？



焼酎・発酵産業の基礎

図 21 講義の内容はためになりましたか？

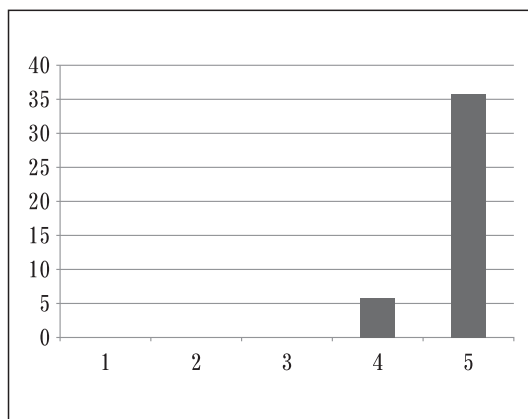


図 19 講師の話し方やスピードについて満足していますか？

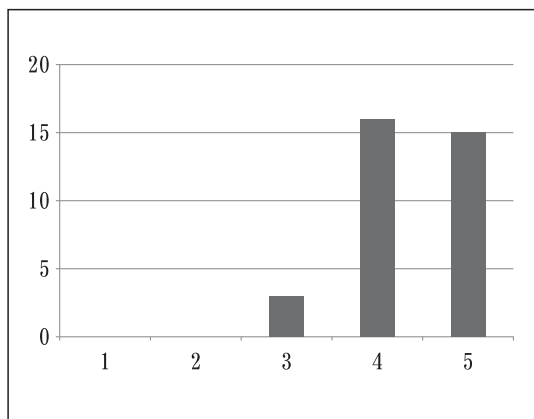


図 22 講義の方法、進め方について満足していますか？

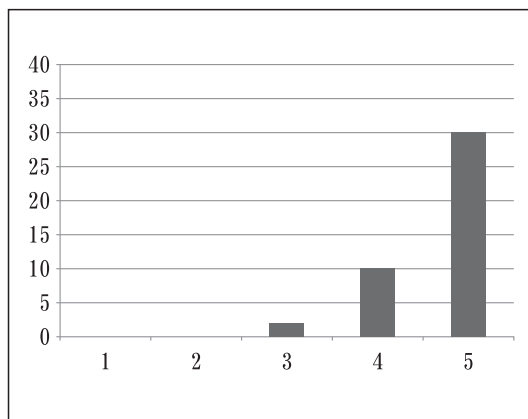


図 23 講師の話し方やスピードについて満足していますか？

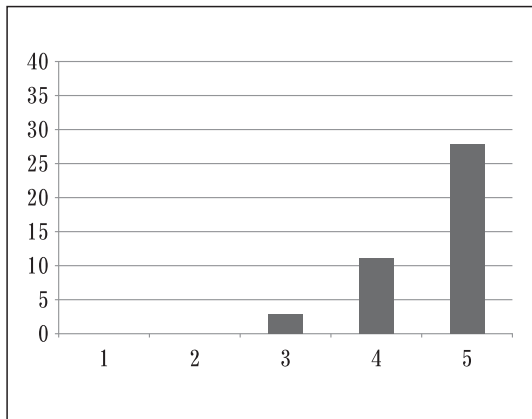


図 26 講義の方法、進め方について満足していますか？

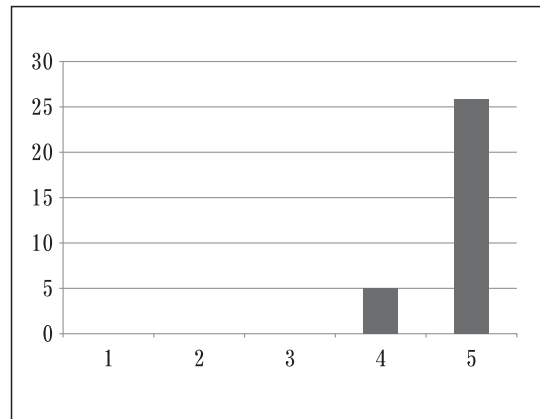


図 24 教材について満足していますか？

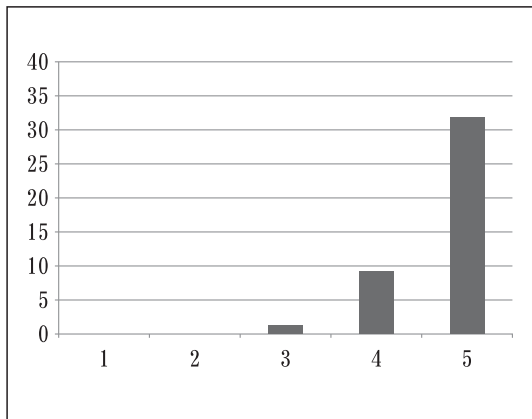
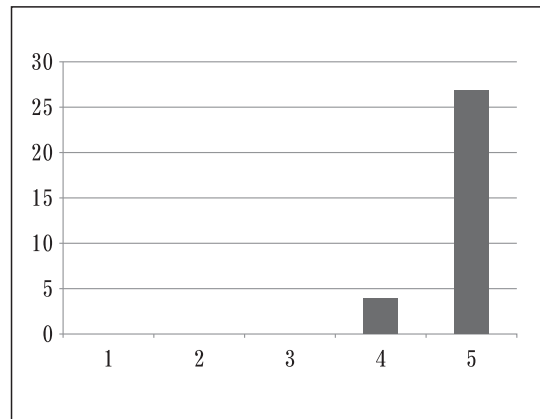


図 27 講師の話し方やスピードについて満足していますか？



鹿児島県の食産業を支える自然環境

図 25 講義の内容はためになりましたか？

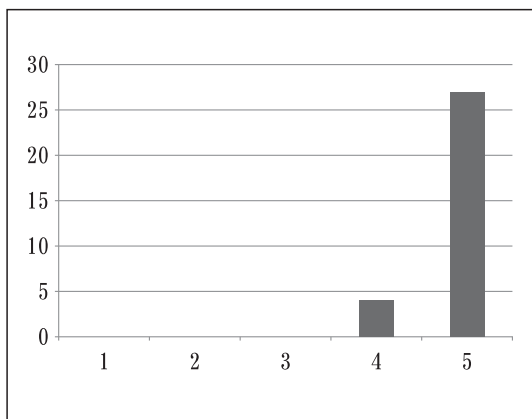
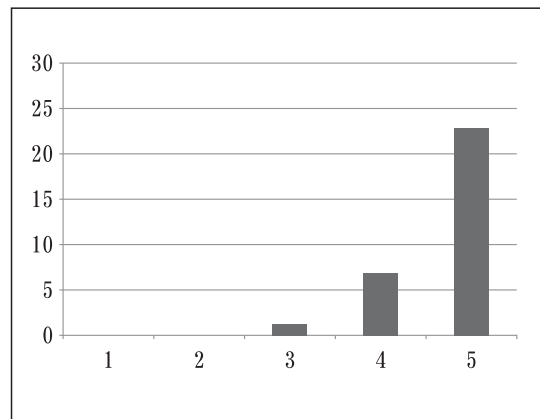


図 28 教材について満足していますか？



鹿児島の健康と長寿

図 29 講義の内容はためになりましたか？

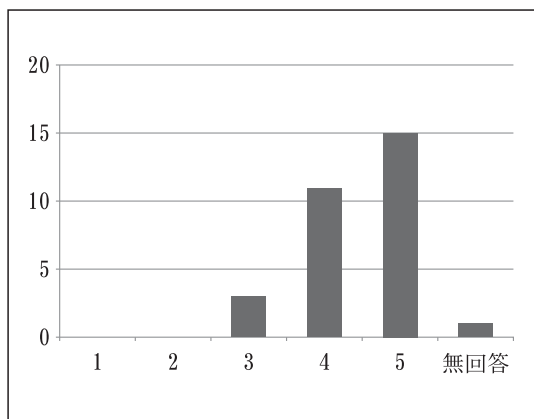
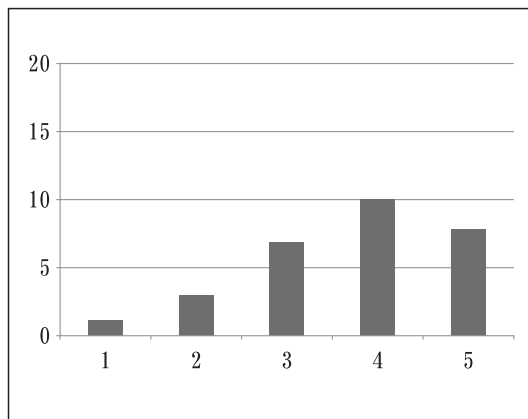


図 32 教材について満足していますか？



情報発信スキル

図 30 講義の方法、進め方について満足していますか？

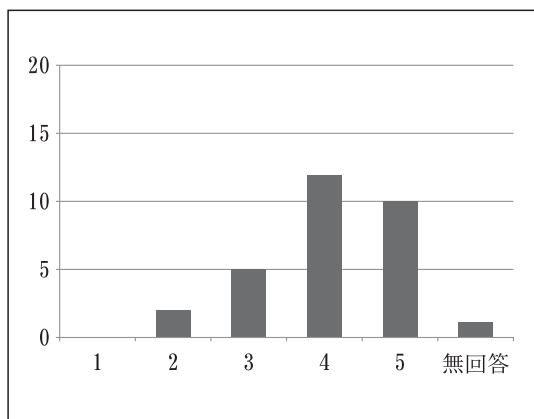


図 33 講義の内容はためになりましたか？

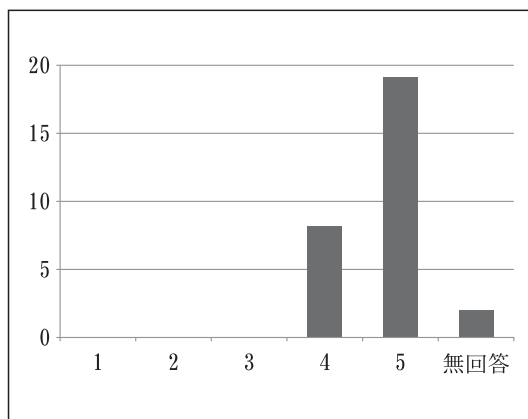


図 31 講師の話し方やスピードについて満足していますか？

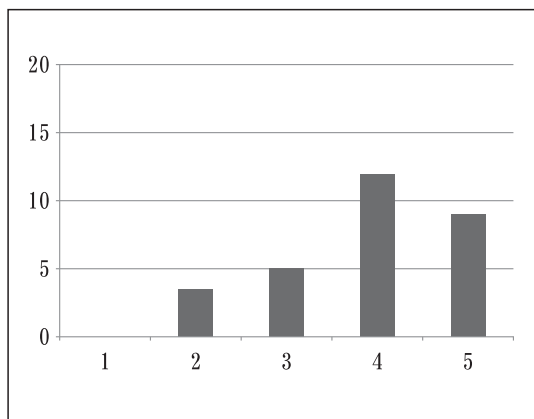
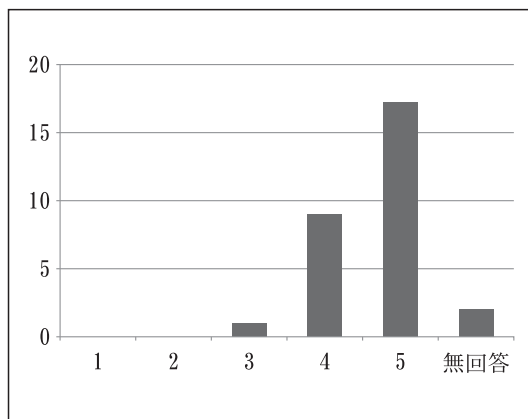


図 34 講義の方法、進め方について満足していますか？



（第五回より参加）

図 35 講師の話し方やスピードについて満足していますか？

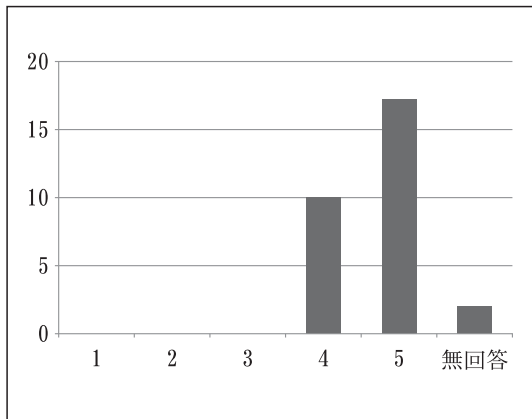
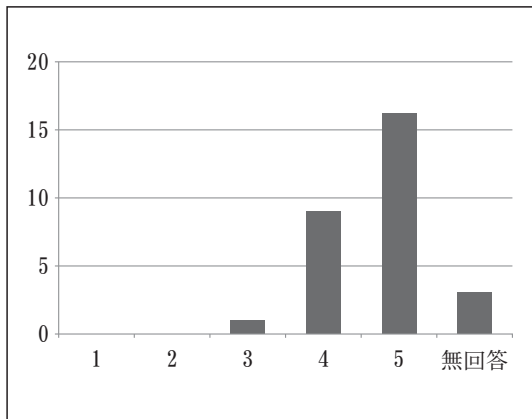


図 36 教材について満足していますか？



2 その他の評価—カリキュラム研究会での検討事項を中心に—

(1) 趣旨

「かごしまルネッサンスアカデミー健康環境文化コース」が、具体的に採用する体制、カリキュラムについて、受講生の参集や全学的な連携体制構築を念頭において、充実した講義設定を目指して、受講生、協力教員、関連企業、地方公共団体の要望を検討するためにカリキュラム研究会を開催した。

(2) メンバー構成

- 1) 山本 誠 鹿児島県観光交流局かごしま PR 課主幹
- 2) 鮫島吉廣 鹿児島大学農学部焼酎学講座教授
- 3) 高峯和則 鹿児島大学農学部焼酎学講座准教授
- 4) 木部暢子 鹿児島大学法文学部長
- 5) 小山次朗 鹿児島大学水産学部教授

- 6) 飯山久夫 鹿児島大学学術国際部研究協力課課長代理
- 7) 小栗有子 鹿児島大学生涯学習教育研究センター准教授
- 8) 野村 卓 鹿児島大学産学官連携推進機構特任准教授

（順不同・敬称略）

(3) カリキュラム研究会における報告および検討事項

【1】報告事項

- (1) 前回のカリキュラム研究会以降の報告
- (2) 第三期カリキュラムの準備状況

【2】議題

- (1) カリキュラムの考え方について
- (2) カリキュラムの内容について
- (3) 講義・実習の実施日程について
- (4) 第三期生募集について

3 第二期の全体評価と課題

(1) コースの運営について

募集と PR について

第二期の受講応募者数は 34 名と定員の 30 名を超える応募となった。応募動機などを書類にて審査した結果、応募者全員に受講を許可した。本事業ならびにコースの社会的認知は低く、8 月に修了課題発表のためのプレス発表（県庁記者クラブ）や修了課題の公開行事（鹿児島大学共通教育 2 号棟）の 2 回にわたって PR 活動を行った。

なお、受講の目的として「職務」「ボランティア」とは別に「趣味」という受講者が第一期同様に存在した。本事業の目的とは異なるともいえるが、こうした受講者の意識を「職務」「ボランティア」などへと発展させていくことも、本コースの使命といえる。

また、厳しい見通しながら、今後「趣味」と答える受講申込者の増加も考えられた。

これらの意見だけによる受講の可否の判定は慎重になされなければならない。意識の高い人と、「趣味」受講者の意識を引き上げるために、修了生を中心とした PR に重点を置いた受講者確保も進める必要がある。

講義・実習日の設定について

講義・実習日を平日夜や土日に組んだことについて、受講生の間からは募集時にも公表していたこともあり、大きな不満は出されなかった。毎週連続して講義・実習が実施されることに対しては負担増を訴える声もあった。必修クラスの配置などカリキュラム上の課題はあるものの、土日を中心に、平日夜間に講義・実習を実施するという方針については今後も継続実施してよいと考えられた。

なお受講者層を主婦や学生にまで広げていこうとする場合は、平日昼間に講義・実習を実施することも検討する必要がある。

また、鹿児島においても子育て中の若い女性に対する学習権保障の課題も表出した。鹿児島市等でも子育て支援を重点化していることもあり、今後これらとの連携も検討する必要がある。

修了時の資格付与について

第一期の修了生では、公的資格の付与を望む声が多数上げられていた。

ところが第二期生では第一期生よりは要望の度合いが低くなる傾向が見られた。

しかし、鹿児島県でも資格取得に対する要望と受講動機は高まっているとみるのが妥当であり、鹿児島県との連携において公的資格付与の検討は重要な要件となろう。

ただし、資格制度はひとたび実施すれば、鹿児島大学は今後、その制度を維持継続することが求められることは、前年の成果報告書でも指摘した。

文部科学省による中間評価も行われ、拠点形成と大学として継続的に本事業を継続させる方向性を検討する時期に入っていると考えられた。

ポスト・ルネッサンスアカデミー時までには公的資格付与に関する見解が求められる。

同窓会組織について

同窓会組織については、第一期生を中心に2008年6月に設立総会、同年9月には第二期生の修了式に合わせて、臨時総会が実施され、各コース各期から幹事を選出し、幹事会を中心とした運営体制が整備された。

同窓会を通じて、大学と連携する方策について、具体的に検討した。

特に、第二期生はグループで修了課題に取り組

み、修了後も継続的に活動を行っているグループもある。これらの活動を同窓会事業に組み入れるのか、企画事業と同窓会事業を分けて活動展開していくのかについて、今後検討した。

(2) コースのカリキュラム

教育目標の設定と科目・クラスの配置

HECコースの教育目標と科目・クラスの配置について、ほぼ予定どおり運営・実施され、全体の満足度も高かった。しかしながら、HECコースが養成しようとする地域再生リーダー像に対しては、受講者との意見交換の機会が少なかったために、齟齬が見られた。

このことは本コースの設置目的に直結する重大な事項である。

これらは修了課題の成果と継続性にもリンクしている傾向も見られ、今後の修了課題の取り組みに対して、きめ細やかな支援体制の整備が重要であることが明らかになった。

また、開講科目の増加と、必修・選択制度の幅によっては、「趣味」的受講者が自身の関心領域科目を中心に受講するという事態も散見された。

これでは、「趣味」的受講者を地域再生のリーダーや、地域再生にかかわる人の支援者として養成できなくなってしまう。科目・クラスの配置についてもきめ細やかな配慮が求められた。

出席とレポート課題

必修科目が多く、講義が集中する日程が組まれていたため、第一期生に引き続いて、受講者からの要望として、欠席の場合の救済措置を求める声やレポート課題の負担軽減などが上げられていた。

開講当初からレポート課題は、講師が事前に課題提示する方式になっていたことから、受講生の講義聴講への意識は高く、結果として満足度も高くなる傾向が窺われた。

この成果は、第三期にも継続し、その効果について見定める必要がある。

欠席者への対応については、録画等による記録を視聴することによって各自で補講することを可能にし、レポート提出指導を行った。

また、レポート提出の遅れは、全般的というより、特定の受講生に集中する傾向がある。

これらを放置しておく、中途退籍ということになり、本事業の養成定員を下回る事態にもなりかねない。「趣味」的受講者は、修了課題のグループ対応における意見調整においても動機付けを下げしてしまう可能性が高い。よって、きめ細やかな受講生指導が重要になる。

必修クラスについて

必修クラスが平日夜に開講されている場合、受講者によっては仕事の都合で出席できないケースがある。また選択とされている実習クラスに関しても諸般の事情により参加できないケースが第一期から継続している。第三期以降は、必修クラスを科目必修と修了課題必修に区分けし、選択科目の幅も広げ、やむをえない理由により欠席せざるを得ない場合のために救済措置としては上記（2）で指摘した方法によって単位修得させていくことが望ましいと考えられた。

また、第三期から「食の安全管理コース」や「経営管理コース」の受講者との意識差を縮め、公的資格付与を念頭において、修了要件単位数を74コマから88コマに増加させる。

講義・実習の内容や進め方等

講義・実習の内容や進め方等については、実習の評価が高くなる傾向があった。よって、実習の時間を多く設置するカリキュラムの検討が必要とされた。

また、講義においてもディスカッションやワークショップ等の手法を導入し、意見交換を行う中で、知識習得が行われる講義・実習の体制を整備することが必要になった。

この手法は、開講当初において重点的に実施することによって、同期意識、仲間意識を広げることにもなり、途中退籍予備軍を抑える効果も期待できた。

また、教材開発の一環として、第一期途中から講師には資料の事前準備、当日配布という形式で講義・実習の指導を行ってもらえるようにし、第二期の講義・実習にも継続された。

更に、情報発信能力を修得し、発表する機会として、第二期生はグループで修了課題に取り組んだ。この成果を、鹿児島大学において一般の方や関係者を対象に公開された。

修了課題に取り組む過程や成果発表の機会は、第

二期生の修了後にも大きな影響を与え、地域での継続的な事業活動につながっており、数々のイベント参加や企画に結びついている。

第三期の修了課題の取り組みでは、開講当初から修了課題を中心としたカリキュラムを展開し、自身が地域再生していく具体的なイメージを助長し、それを集団（グループ単位）で取り組む協働理念を定着させる必要がある。そこでは、地域課題や産業課題を具体的に設定し、合意形成や調査研究の手法を修得する過程で実施した。

これらを実施するためにはコースとして修了課題への学習支援体制を検討する必要があった。

表 7 - 1 第二期前半の課題と解決策

項 目	課 題	解 決 策
ア. 成績評価および修了要件	<p>単位修得が諸般の事情から進まず、未聴講・未修得の受講生が出始めている。</p> <p>選択科目を多く設定したことにより、昨年度より自由度が増したことにより、計画的な受講が進まない受講生がいる。</p>	<p>講義欠席の場合、録画聴講による補講の実施及びレポート提出期限を長く設定し、個別の指導も行った。</p> <p>また、単位修得状況をコース受講生に対して通知するようにし、計画的な履修を意識してもらうように、個別に受講生指導を行った。</p>
イ. カリキュラム全般	<p>3コース共通の選択科目で定員が定まっている科目について、当コース希望者が受講できない事態が発生している。</p>	<p>定員のある科目は、講義直前にも受講確認を行い、欠席の場合は他者に参加・学習の機会を保証した。</p> <p>第三期には、定員のある講座は他コースの受講生に対して受講免除枠を拡大し、当コースの受講生の学習機会を保証する。</p>
ウ. 講義・実習の内容	<p>概ね高い評価を受けているが、受講者の知識・関心に幅があり、講義の内容の理解が不十分なケースが上げられた。</p>	<p>第一期からの継続的な課題であるが、教材開発の一環として、資料及び具体的な資料提示の工夫については、講師に工夫を依頼する。</p> <p>受講生や修了生の意見を取りまとめ、反映させる機会を設定する。</p>
エ. 講義・実習の方法、進め方	<p>実習時の移動に伴う時間ももったいないとの意見が出されている。</p> <p>また、専門性の高い講義や広範にわたる講義では事前学習のアナウンスが要望されている。</p>	<p>実習地への移動に時間を要する場合、講師に依頼して車内講義の試みをしてもらう。</p> <p>シラバスには事前に参考文献の紹介がなされているが、連絡体制の整備に伴い、直前での事前学習連絡を行うようにする。</p>
オ. 講師の話し方やスピード	<p>実習先によっては、講師の話が聞き取りにくいといった意見が出されている。</p>	<p>野外では拡声器を使用し、聞き取れるように配慮する。</p> <p>室内で聴講に制限がある場合、グループにわけて説明してもらえるよう講師に依頼する。</p>
カ. 教材	<p>講義を受講するために事前に学習するための文献紹介等をしてもらいたいという意見があった。</p>	<p>シラバス作成時に参考文献や事前学習資料を提示しているが、受講生にはシラバスを参照し、事前学習をするようアナウンスを強化する。</p>
キ. 修了課題指導	<p>修了課題の進め方を趣旨を理解しないで取り組んだり、具体的な進捗イメージができずに戸惑う意見が多く挙げられた。</p>	<p>修了課題を進めるためのロードマップを提示し、日程的なイメージを理解させ、フォーマットも作成し、進捗状況を報告するような指導体制を整える。</p> <p>グループの打ち合わせに同席し、合意形成の支援を個別に行い、進め方や考え方に対して指導する。</p> <p>修了課題のメーリングリストを設置し、全体にも連絡が届くようにして、他グループの進捗状況と自身のグループの進捗状況を理解させるように配慮する。</p>
ク. 連絡体制の整備	<p>IT技術を使用できない人が多く、連絡等がスムーズにいかない事例が散見された。</p> <p>受講者間で情報交換しようにもコース教員等を経由しなければ情報発信ができない事態があった。</p>	<p>受講を期にメディアに慣れることを目指して、大学内の情報通信メディアを利用できるように条件整備を行った。</p> <p>メーリングリストを開設し、受講者間で情報交換（講義情報含む）がしやすいようにした。</p> <p>第三期は入校当初から、この手続きを行う。</p>

表 7 - 2 第二期後半の課題と解決策

項 目	課 題	解 決 策
ア. コースの教育目的と理念	地域再生を担う人材養成の理念が不明確	情報発信を通じた地域再生を担う人材養成を明確にし、修了課題により重きを持たせ、5つの教育目標を3つに整理統合する。 これらは第3期に適用する。
イ. カリキュラム全般	開設科目が幅広く、受講生が体系的に捉えて受講できていない。	科目クラスの体系化を図るために、科目オリエンテーションを地域再生論に移行して、それぞれの科目の位置づけを理解させる。 これらは第3期に導入・実施する。
ウ. 講義・実習について	実習と組み合わせた科目に対する意識の高さ	実習科目を充実させ、開講初期から実施することによってコース生の仲間意識を助長する。 これらは第3期に導入・実施する。
エ. 修了課題の進め方	グループ活動として12月から取り組むようにしたが、グループ活動支援が十分でなく、戸惑いが見られた。	開講当初から修了課題関連科目を設置し、修了生の実践報告も導入して、受講生の意識とイメージを高めるように配慮する。 これらは第3期に導入・実施する。
オ. 修了課題に取り組む学習意欲の向上	修了課題の取り組みや進捗にグループ差がみられ、打ち合わせ等の少ないグループの学習意識が低くなる傾向が見られた。	グループディスカッションの支援として、実務者のみならず、研究支援者も含めた、支援体制の整備・強化 これらは第3期に導入・実施する。
カ. 修了生との連携	修了課題発表や同窓会、懇親会等での意思疎通過程に問題があった。	修了課題を修了生と連携して進めたり、カリキュラム以外でも修了生の活動に参加を進めることによって、各期との連携を深められるように配慮する。 同窓会事業や修了生事業との連携も含めて整備を進める。
キ. その他	修了生への学習機会の保障	コース修了生に対して、講義・実習への参加を保証し、継続的なかかわりが保てるように配慮する。 ただし、定員等がある場合には受講生に対する配慮を行う。 また、修了生と受講生が一緒になったゼミナールも別途実施し、新たな事業提案ができるように支援する。 これらは第3期に導入・実施し、健康・環境・文化コースとしての拠点形成の土台とする。

引用・参考文献

- ・鹿児島大学 「科学技術振興調整費 地域再生人材創出拠点の形成
かごしまルネッサンスアカデミー」
平成18年度 科学技術総合研究委託費 委託業務成果報告書
- ・鹿児島大学 「科学技術振興調整費 地域再生人材創出拠点の形成
かごしまルネッサンスアカデミー」
平成19年度 科学技術総合研究委託費 委託業務成果報告書
- ・降旗信一・小栗有子 「鹿児島大学かごしまルネッサンスアカデミー・健康環境文化
コース(第一期)における社会人リカレント教育カリキュラムの開発と評価」
鹿児島大学生涯学習教育研究センター年報 第5号 2008年